

プリオン病の二次感染予防に関する研究

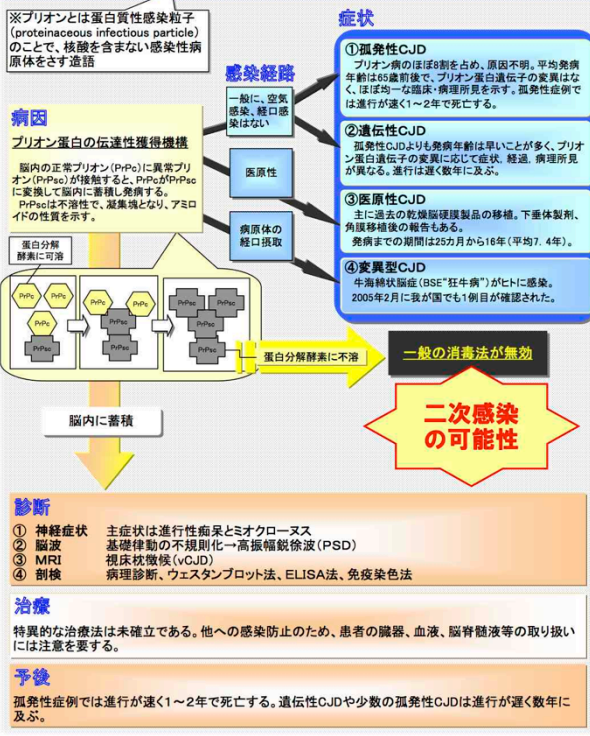
研究分担者：東京大学脳神経外科 齊藤延人

説明書類の整備

CJDについて

クロイツフェルト・ヤコブ病 (Creutzfeldt-Jakob disease, CJD)とは・・・

- 100万人に一人の割合で孤発性又は家族性に生じ、脳組織の海绵(スポンジ)状変性を特徴とする疾患。
- 異常構造を有する異常プリオン蛋白が中枢神経系に蓄積し、不可逆的な致死性神経障害を生ずる。
- 現在では成因から、プリオン(※)病、また病理から伝達性海绵状脳症(transmissible spongiform encephalopathy, TSE)として、哺乳類の神経疾患群にひとくりにされている。牛海绵状脳症 (bovine spongiform encephalopathy) がBSE。



インシデント事例フォロー状況

事例	CJD診断時期	告知対象者
1	平成16年6月	11名
2	平成16年8月	10名
3	平成17年10月	12名
4	平成18年10月	7名
5	平成18年9月	0名
6	平成13年6月	2名
7	平成15年3月	22名
8	平成18年3月	21名
9	平成20年1月	5名
10	平成21年7月 (H23新規)	50
11	平成23年9月 (H24新規)	60名
12	平成24年2月 (H24新規)	58名
13	平成24年5月 (H24新規)	5名
14	平成26年8月 (H26新規)	12名

解説

1. インシデント発生時の説明書類、フォローアップのための書類を整備した。
2. 過去の事案や新規インシデント可能性事案の現地調査を行った。平成23年度に1件、平成24年度に3件、平成26年度に1件の新規インシデント事例があった。
3. 平成26年末までに、14件のインシデント事案があるが、これまでのところ二次感染発症者はいない。